

# 「あおぞらサロン」の取り組みについて

～ 相談支援を通じた地域づくり～

由利本荘市社会福祉協議会福祉事業課

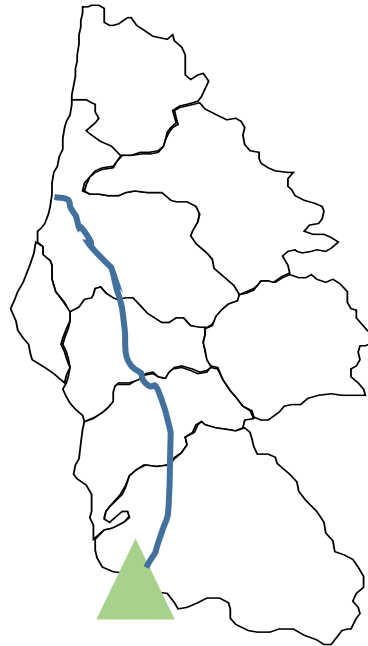
由利本荘市生活支援相談センター

主任相談支援員 庄司 齊

# 由利本荘市の概況について



面積：1209.60km<sup>2</sup>  
人口：78,883人  
世帯数：30,533世帯  
高齢化率：34.4%  
(平成29年5月31日現在)



由利本荘市は、秋田県の南西部に位置し、東に出羽丘陵を望み、中央を子吉川が貫流して日本海にそそぐ、山と川と海の美しい自然に囲まれた地域であり、鳥海山と出羽丘陵に接する山間地帯、子吉川流域地帯、日本海に面した海洋平野地帯の三地域から構成されている(市HPより)



# 由利本荘市社会福祉協議会が実施する 主な事業

- 生活困窮者自立支援事業
- 赤ちゃん誕生おめでとうメッセージ事業
- 生活支援体制整備事業
- 介護支援ボランティア事業
- 見守り訪問安心事業
- 中学校修学旅行費補助事業
- 介護用品支給事業
- たすけあい資金貸付事業
- 生活サポート事業
- 福祉団体等の活動支援
- 一次予防事業
- 介護保険事業
- ボランティアセンター
- ファミリーサポート事業

# 由利本荘市生活支援相談センターについて

## ○ 職員体制

- 主任相談支援員：1名
- 相談支援員：1名
- 就労支援員：1名
- 就労準備支援員：1名

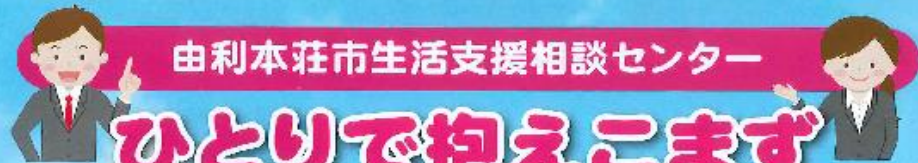
## ○ 平成28年度の相談対応実績

- 相談受付件数：163件
- プラン作成件数：25件

## ○ 平成28年度の相談対応状況

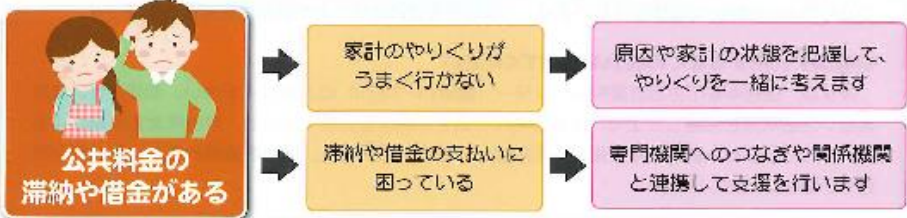
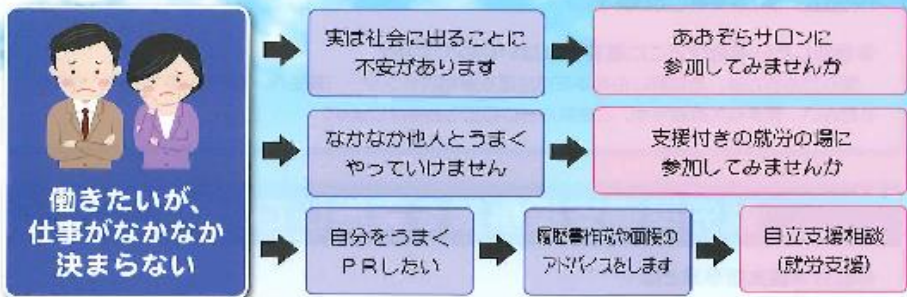
- 電話相談・連絡：411回
- 訪問・同行支援：255回
- 面談：268回
- 他機関との会議・協議：211回





## 由利本荘市生活支援相談センター

# ひとりで抱えこまず まずはご相談ください



引きこもりやニートの問題などで悩んでいる方もご相談ください。  
相談は無料です。秘密も厳守します。

問い合わせ先 **由利本荘市生活支援相談センター**

(社会福祉法人由利本荘市社会福祉協議会)

☎0184-74-7470

相談窓口：由利本荘市互谷地1番地(商工会館3階)  
開設時間：月～金曜 8時30分～17時15分(※土・日・祝日・年末年始は休み)

## あおぞらサロンを開催しています

### ●あおぞらサロンとは…

あおぞらサロンは、ひきこもりや長期にわたって仕事に就かない方を対象にした居場所づくり活動です。



### ●あおぞらサロンではどのような活動を行っていますか？

創作や調理などの体験活動、ソフトバレーボールやグラウンドゴルフなどのスポーツ活動、作業場などのボランティア活動、社会見学などを行っています。現在は月1回程度、参加者の希望も取り入れながら楽しく活動しています。

### ●参加者はどれ位いますか？

現在は、7～8人が定期的に参加して活動しています。



### ●参加者にはどのような変化が見られますか？

活動を通して楽しみながら人との交流を行うことで参加者同士のコミュニケーションが活発になったり、自発的に取り組むことを見つけて取り組む姿が見られるようになったり参加者それぞれの成長や変化を実感しています。

### ●参加したい場合はどこに連絡すればいいのですか？

関心がある方は、お気軽に由利本荘市生活支援相談センター(電話74-7470)までお問い合わせください。見学も大歓迎です。ご家族からの相談も受け付けます。

## 就労準備支援事業を実施しています

### ●就労準備支援事業とは…

就労体験等を通じた訓練や生活習慣の確立のための指導や地域活動への参加等の日常・社会生活自立のための訓練を実施することにより、一般就労を達成することを目的に実施する事業です。

### ●事業を利用するまでの流れを教えてください

まずは、由利本荘市生活支援相談センター(電話74-7470)にご相談ください。面談を行い就労意欲や生活状況を把握した上で、事業の利用可否を支援調整会議で決定し、就労準備支援員による支援に移行します。就労準備支援員は利用者と一緒に目標を考え、目標を達成するために必要な活動を計画的に実施します。



# あおぞらサロンについて

- ・ひきこもりや社会参加のきっかけがない状態にある方を対象としている(親の参加もOK)。
- ・原則月1回の開催としている。
- ・内容は、座禅や太極拳、ピザづくりなどの体験活動や社会見学、スポーツ体験、ボランティア活動を実施している。参加者の主体性を確保するため参加者の意見も取り入れている。
- ・市内の障がい者施設や老人クラブのスポーツサークル、他の支援機関など必ず外部の機関と連携して活動を行っている。
- ・秋田県社会福祉協議会のモデル事業からスタートしたが、平成29年度から由利本荘市社協の自主財源で実施している。

## あおぞらサロン開催のお知らせ

～ そば打ち教室を行います～

1月のあおぞらサロンを次のとおり開催します。  
社会参加のきっかけや仲間づくりのために参加してみませんか？



- 日 時 平成30年1月30日(火)
- 場 所 鶴舞会館「調理実習室」
- 内 容 そば打ち教室、試食会
- 日 程 10:00 鶴舞会館集合  
10:15~11:30 そば打ち教室  
11:30~ 試食会
- 参加費 付き添いの方のみ1人1,000円いただきます。
- その他 ・ 準備の都合上、参加を希望する方は1月25日(木)まで下記担当にご連絡ください。



【担 当】  
由利本荘市社会福祉協議会  
福祉事業課 繁野千恵子  
電話：74-7470



# 活動開始のきっかけ

- ひきこもりや長期不就労の状態にある方の支援について悩んでいた。
- 相談につながり、定期的に訪問しても具体的な支援につながらなかった。
  - 話題がない、話が続かない、約束しても会ってもらえない etc...
- 対象者に対して、具体的に提案できる支援があれば、支援の方向性や関わり方も変化すると考えた。
- **一緒に活動**する中で、自然に今考えていることや悩んでいること、将来のことなどを話すことができるようになれば、対象者に対する相談支援の充実につながるのでは・・・ ※イメージは生活場面面接
- **居場所づくり活動が浸透することで、自立相談機関の存在を地域にアピールして、その他の生活福祉課題の掘り起こしにつながるのではないか → 地域における総合相談体制の充実への一歩になると考えた**

# 活動の目的

- 地域に潜在化する生活困窮者等（特にひきこもりや長期不就労者）のニーズをキャッチする。
- 生活困窮者支援を通じた関係機関との横のつながりを構築し、連携を強化する。
- 生活困窮者を支援する社会資源を開発し、ともに創造する視点を連携する社会福祉法人・施設と共有する。
- 生活困窮者が活動に参加することにより、社会参加や就労に向けた意欲の喚起を図るとともに、社会参加の促進につなげていく。
- 事業を実施することにより、個を支える相談支援と個を支える地域づくりを融合させる。



# 対象者把握と浮かび上がった課題

## 〔対象者把握の方法〕

- ・ 行政が持っている情報の提供を受け  
る
- ・ 市内全域を対象として、ひきこもりや  
長期不就労の状態にある方の実態把  
握調査を行う  
※ 社協各支所を通じて民協定例会  
で協力を依頼する
- ・ 障がい領域の相談機関連絡会に出  
向いて活動の説明と情報提供の依  
頼を行う

## 〔浮かび上がった課題〕

- ・ 行政も実は対象者の把握  
に苦慮していた
- ・ 民生委員からも「そのよう  
な状態にある人を知っては  
いるが、相談を受けていな  
い状態で情報を提供するこ  
とには抵抗がある」とのご  
意見をいただく  
→ アウトリーチの難しさに  
直面

# 活動の成果と課題①〔総論〕

- 相談機関の間口が広がった → 就労準備支援事業の受託につながった。相談→活動→相談のサイクルが確立し始めた。
- ひきこもりや長期不就労の状態にある方の相談を受けた際に「困っていることはありませんか？」から「こんな活動があるんだけど、一度参加してみない？」と前向きな提案ができるようになった。現在は、活動の中で役割をお願いしたり、活動に参加者の意見を反映させるなど主体性の喚起に努めている。
- 民生委員の理解が進むにつれ「自分の担当地域に気になる人がいるので少し関わってみてほしい」という依頼を受けることが多くなってきた。
- ひきこもり支援に関する学習会を開催したことにより、市民のひきこもりに関する理解を深めることができた。思っていた以上に関心が高いことに驚いた。

## 活動の成果と課題②〔参加者・家族〕

- 一緒に活動する中で、日頃考えていることや家族との関係などを自然に話してくれるようになった。相談援助関係が成立しはじめた。
- やりたい活動を積極的に発言してくれるようになった。
- 個で動く時と集団の中で動く時の違いを把握するなど、訪問や来所では見ることのできない参加者の姿を観察することにより、今後の支援方針を考える際の参考になっている。
- 家族からは「これまでは自分の子どもにどう接したらよいか分からなかったが、今後明るい光が差した気がする」との感想が聞かれている。
- あおぞらサロンが参加者にとって安住の場所にならないように、あくまでステップアップのための過程の一つであることへの理解を進めることが課題となっている。参加機関が長期化すればするほど就労意欲が低くなるというジレンマに直面している。

# 活動の成果と課題③〔地域〕

- 意外と相談内容から地域が見えることが分かった。
  - ・ 同市由利本荘市でも各地域ごとに出てくるニーズに特徴がある
- 社会福祉協議会としてひきこもりや長期不就労の方を対象とした事業を実施することで、自分の近くにもそのような課題を抱えている世帯があることに気づいてもらうきっかけになった。
- ひきこもりや長期不就労に関する相談は、その背景に親子関係やいじめ・不登校、病気などさまざまな複合課題を有することが多いため、社会福祉協議会だけでなく、地域ぐるみで支援する必要があることを痛感している。
- 実際訪問したり、情報を収集するとひきこもりや長期不就労の状態にある方々の多くは地域の中で排除されているわけではないが、孤立している。相談活動や居場所づくり活動を通じて、特別な存在ではなく、地域の中の一世代であるという理解を進めていく必要がある → **まさしく地域づくり**

## 活動の成果と課題③〔地域〕

- 意外と相談内容から地域が見えることが分かった。
  - ・ 同市由利本荘市でも各地域ごとに出てくるニーズに特徴がある
- 社会福祉協議会としてひきこもりや長期不就労の方を対象とした事業を実施することで、自分の近くにもそのような課題を抱えている世帯があることに気づいてもらうきっかけになった。
- ひきこもりや長期不就労に関する相談は、その背景に親子関係やいじめ・不登校、病気などさまざまな複合課題を有することが多いため、社会福祉協議会だけでなく、地域ぐるみで支援する必要があることを痛感している。
- 実際訪問したり、情報を収集するとひきこもりや長期不就労の状態にある方々の多くは地域の中で排除されているわけではないが、孤立している場合が多い。相談活動や居場所づくり活動を通じて、特別な存在ではなく、地域の中の一世代であるという理解を進めていく必要がある → **まさしく地域づくり**



# 今後の方向性について

- あおぞらサロンの参加者を一人でも多く就労につなげたい。そのために就労体験の場を多く確保する→**職親制度や福祉施設との連携を重視**
- 現在担い手の確保に苦慮している農業分野との連携を進める。
- 就労準備支援事業と連携しながら、多様なプログラムを一体的・包括的に実施して参加者の社会参加意欲の向上につなげていく。
- 市内各地域ごとに出張相談会を開催して潜在化しているニーズの掘り起こしにつなげることにより相談機能の強化を図る。生活課題の早期発見・早期対応  
→ 民生委員など多様な社会資源とのネットワークを強化する
- 地域の総合相談や生活支援体制が更に充実するよう、秋田県心身障害者コロニーに限らず施設が有する多様な資源、人材と連携を強化していく。
- **ゆくゆくは、あおぞらサロンの参加者が積極的にボランティア活動などに参加して地域の高齢者や障がい者を支える側に回ればいいなあ・・・**

ご清聴ありがとうございました